

採卵鶏の長期飼養のための強制休産処理法

【要約】 採卵鶏の長期飼養時における適性な強制休産処理時期は、68週齢時と早い時期に実施すると、76、84週齢時と遅い時期に実施するよりも生存率は優れ、処理後の50%産卵回復日数が5～21日程度短くなるため、日産卵量、1羽当たり産卵量で若干優れる傾向にある。

畜産研究所・中小家畜部・家きん研究室

連絡先

092-922-4100

部会名	畜産	専門	飼育管理	対象	家禽類	分類	指導
-----	----	----	------	----	-----	----	----

【背景・ねらい】

養鶏農家は、近年の長引く卵価低迷に対応するため、より一層の低コスト生産が求められている。現実的には、採卵鶏の育成経費の圧縮には限界があるため、強制休産処理技術を取り入れた低卵価に対応した安定的な新しい産卵パターンの選定が急務となっている。

このため、採卵鶏の長期飼養時における強制休産処理時期の違いが産卵性能に与える影響を明らかにする。

【成果の内容・特徴】

- ①採卵鶏を長期飼養して強制休産処理を行う場合、処理を実施する時期は76～84週齢時よりも早い68週齢時の方が、生存率が高く、ケージ稼働率の面で有利となる（表1）。
- ②強制休産処理を68週齢時に実施すると、処理後の50%産卵回復日数は5～21日程度短くなるため、産卵日量、1羽当たりの産卵量が優れる傾向であるが、平均卵重、飼料要求率では差が認められない（表1、2）。
- ③春～夏、秋～冬等の餌付け時期が異なっても、強制休産処理を実施する鶏の週齢は、68週齢とした方がよい（表1、2）。

【成果の活用面・留意点】

- ①強制休産処理を実施する養鶏家の指導資料として活用する。
- ②強制休産処理に伴う鶏の生存率は鶏の週齢と季節の影響を受けるため、処理後の産卵回復及び鶏舎効率を考慮した強制休産処理の実施時期は、68週齢を目的に、暑熱期、厳寒期を避けて、春～夏餌付けでは11～12月もしくは3～4月、秋～冬餌付けでは6～7月初旬に実施する。

[具体的データ]

表1 強制休産処理時期と産卵成績 (平成2～5年)

餌付け 時期	処理 週齢	生存率 %	産卵率 %	平均卵重 g	日産卵量 g	飼料要求率	50%産卵 日齢
春～夏	68	74.0	68.4	63.7	43.6	2.75	164
	76	68.8	67.6	63.5	42.9	2.80	162
	84	64.4	67.9	63.8	43.3	2.76	166
秋～冬	68	71.9	67.7	63.9	43.3	2.93	167
	76	66.7	67.3	63.6	42.8	2.96	167
	84	65.8	65.8	63.7	41.9	2.93	164

- 注) ① 品種：シェバー、鶏舎：ウインドウレス、試験羽数：1区24羽×2反復
 ② 産卵期間は、141日齢から812日齢までとした。
 ③ 強制休産処理は、3日間絶食・絶水を行い、その後鶏体重が75%になるまで給水のみとする。

表2 強制休産処理時期と卵重 (平成2～5年)

餌付け 時期	処理 週齢	処理前 卵重 g	処理後 卵重 g	処理後50% 産卵回復日数	1羽当たり 産卵量 Kg
春～夏	68	61.2	67.5	39	29.3
	76	61.3	67.5	46	28.8
	84	62.0	67.7	60	29.1
秋～冬	68	61.2	65.6	38	29.1
	76	62.0	65.0	43	28.8
	84	62.3	65.2	53	28.2

[その他]

研究課題名：強制休産と微生物給与による長期飼養技術の実用化

予算区分：経常

研究期間：平成5年度（平成2～5年）

研究担当者：小野晴美、福原絵里子、津留崎正信

発表論文等：平成5年度福岡県畜産関係試験成績書